

岡崎乾二郎 連続講座

近代の美術 解析 1

講座全体の概要

- 十九世紀以降、近代の『美術』という領域に重なり合ったさまざまな問題群の検証。
- 日本の近代美術を例証として、特定の地域や時代、絵画、彫刻、建築、文学、舞台、映画、写真という特定ジャンルを超えて展開した近代芸術の活動を立体的に解説する。
世界の一地点としての日本の事例解析からはじめる、近代文化の視界。
- 蓄積してきた知見を総動員して明らかにする日本の近代文化、そして世界の近代芸術の生きた姿。

講座スケジュールと
各回の講義内容(予定)

第1回 2016年1月29日[金]

内戦としての絵画。

19世紀リアリズム絵画に、国民国家の創成期における絵画に組み込まれた表象の葛藤、分裂～内戦を読み取る。ギュスターヴ・クールベ、アドルフ・フォン・メンツェル、高橋由一、狩野芳崖、五姓田芳柳

第2回 2016年2月27日[土]

たんなる調整概念としての美学(アカデミズム)

19世紀のアカデミー絵画における、あらたな大衆社会にうずまく雑多な欲動＝俗情の制御意志を読みとく。ポール・ドラローシュ、ジャン＝レオン・ジェローム、山本芳翠 黒田清輝

第3回 2016年3月28日[月]

遍在する運動としての作品。

国家の制度的な完成は、そこに包摂されるときとめない集合としての国民(そして、その個々の国民自身が自覚する、とりとめなく浮ついた感覚)を意識させることになった。印象派という名称はこうした感覚を正しく反映している。いわゆる後期印象派問題から再考する20世紀のはじまり、岡倉天心、バーナード・ベレンソン、正岡子規、フェリックス・フェネオン、夏目漱石、ロジャー・フライ

今まで語られることのなかった、
これからはもはや回避することができないだろう
美術の見方の決定版——現在までの思考の集大成として
岡崎乾二郎が語る。

歴史の逆説とは、歴史を語ろうとする営為が、そこで歴史(線的な連続)として語られようとする対象(ジャンルあるいは個人や組織、動向)を、ひとつの閉じた自律した領域であるように構成してしまうことにあった。

ゆえに、歴史は対象をはっきりと認識するためではなく、多くは、その対象と(そしてその対象に関連づけられる主体)の自己同定を強化する装置として組織されてきた。つまり認識しようとする側(主体)のもつ、認識上の欠陥を自己の同一性の根拠、主体性の根拠にすり替えてしまう陥穽がそこにあった。

歴史は希望でもありえるが、多くは開き直りの希望を与えるにすぎない。

具体的な対象に直接触れることなしに、とくに最初にそれを語ろうとする歴史、を説くことからはじめてしまうことは開き直りに連座することにほかならない。この意味でほとんどすべての「美術の歴史」を語る本は最初にひもとくべき入門書にはなりえない。読まない方が身のためである。世界中どこにあるのも、著者(あるいは著者が所属するところの特定の思潮)が自らいあてられない自らの弱点(引け目)を読者にも共有することをもとめる類いの歴史物語にすぎない。

いうまでもなく実際に個々の作品に触れ、その向こうに広がっている、特定の時代をこえ、特定の地域をこえ、特定のジャンルをこえた文化のネットワークを仄かであれ見出し、知ることは、作家たちがその作品を制作した現場がいかなるものであったか、

その作品がいかなる広がりの中で作られていったか、編み目のように伸びていく現場を確かに追体験することにつながる。が、もしさらに当時その作家たちが日日の暮らしの中でいかなるもの(もちろんこれは彼らの作品が属すジャンルの生産物だけには限られない)に触れていたか、知覚していたか、そして何を話題に議論し、どんな感情を日日生起させていたか、抱いていたかを知ることができれば、その理解はもっと広がるだろう。

従来の歴史認識はこの広がりを宿命的に切断してしまう。なぜなら、これらはあまりに膨大でとりとめない広がりを感じられるから。つまり認識能力の欠如を思い知らされるような、恐ろしさゆえに。

けれども今では、かつてより遥かに容易に、こうした歴史に編成されえない、個々の作品の連携が産み出す膨大なデータ(具体性の編み目)を知ること、そのそれぞれが星雲のように重なり、連携していく運動を見ていくことも可能になった。この途方もない宇宙に、いまは、もうひとりの体力だけを頼りに迷い込んでいかななくてもよくなったということである。

だから勇気をもって、いや蛮勇をもって挑めば、いままで知り得なかった(歴史によってなげ禁じられていた)かなりの数の驚くべき事実もきっと明らかになるだろう。

岡崎乾二郎

第1回 | 2016年1月29日[金]

第2回 | 2月27日[土]

第3回 | 3月28日[月] 19:00-20:30(各回90分)

聴講料 | 7000円(全3回)

*3回まとめて申し込む方優先。1回聴講の場合は2500円

申し込み・お問い合わせ先 |

kindaibijutusi@gmail.com (近代文化史研究会)

*申し込み時にはお名前/メールアドレス/どの回を受講希望か明記下さい。

*電話による申し込み・お問い合わせは受付ておりません。

定員 | 60名(先着順)

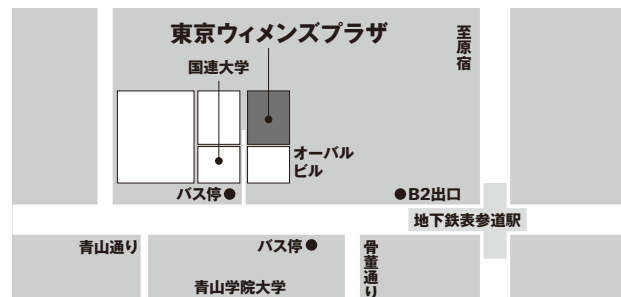
主催 | 近代文化史研究会

協力 | urizen

会場 | 東京ウィメンズプラザ(表参道)

第1会議室あるいは視聴覚室

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5丁目53-67



*なお、4月、5月、6月にもこの連続講座を継続していく予定です。(日程等詳細は後日お知らせします)